

学術調査で発見された 文化遺産の価値と活用

梁取虚空蔵菩薩像

― 鎌倉・室町時代作と判明 ―

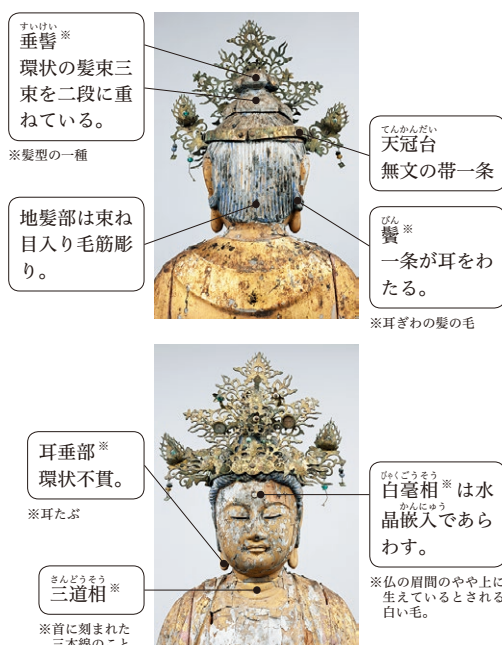
ただみ・モノとくらしのミュージアムでは、梁取地区に所在する町指定重要文化財の虚空蔵菩薩立像と虚空蔵菩薩坐像を展示しています。専門家の調査によって、立像は鎌倉時代作、坐像は室町時代作と判明しました。特に立像は、以前は江戸時代作とされていたが、本調査によって、頭部および胸部が鎌倉時代作であると分かりました。

立像は、「会津地方に伝わる鎌倉時代彫刻の遺品として貴重である。江戸時代の補修による部分がある点は惜しまれるが、本格的な仏師の手によることを思わせる、すぐれた造形をとどめている。」との所見をいただいています。

坐像は、「室町時代、十六世紀頃の造像と推定され、中世にさかのぼる虚空蔵菩薩像の遺例のひとつとして貴重である。当初の台座が現存することも、その稀少性を高めている。」との所見をいただいています。

調査・所見・写真：萩原哉（玉川大学 准教授）
編集：原永円香

虚空蔵菩薩立像



虚空蔵菩薩坐像



未調査であった文化遺産の学術調査が進み、高い価値が発見されました。鎌倉・室町時代の仏像と只見が生んだ大正・昭和期の児童文学作家を紹介します。ただみ・モノとくらしのミュージアムで展示しています。文化遺産の価値を共有し活用（公開・展示・鑑賞）しましょう。

やまのうちあき 山内秋生の作品と功績 —大正・昭和期の児童文学作家—

山内秋生（二八九〇～一九六五）は、只見町二軒在家の九々生に生まれました。文学雑誌『少年世界』を愛読し、十五歳で上京して児童文学の先駆者巖谷小波に入門しました。



山内秋生（17歳）

秋生が大正・昭和期に創作した童話は約百五十話、童話・実用書の著書は十四冊あります。また、文学研究者として明治・大正期の日本児童文学史を執筆した功績があります。一九六五年十一月八日、只見町大倉の比良林公園に秋生の短詩、
「故郷よ 山川よ つばめ 来るころよ」の文学碑が建てられました。祝賀会の後の夜中、秋生は故郷で亡くなりました。ツバメは南の国に行き、故郷に戻って来ます。ツバメにアコガれた少年秋生は、南の地で児童文学の創作と研究に活躍し、戻って来たのです。没後六十年の二〇二五年に

ミュージアムで記念展を行う過程で、作品と功績を調査しました。児童文学作品・実用書・児童文学史を収集し、作品の全貌と研究の功績が明らかにしました。



比良林公園の文学碑と山内秋生（75歳・除幕式）

山内秋生の童話・小説集、雪の描写

美しい装訂の童話集には、『螢のお宮』一九二四年・『月夜のなげき』一九二六年・『父のふるさと』一九四六年・『春の野のゆめ』一九四八年があります。『春の別離』一九二一年・『新生の扉』（『大空高く』）一九二五年は自伝的小説です。一九三九年、四二年の戦時児童文学では『星と語る』『広い世界へ』『とんぼの誕生』があります。秋生とも名のりました。



山内秋生の童話集

秋生の自然描写は只見の風景です。雪の表現にすぐれています。

「白鳥の羽毛をむしって投げよう。雪は、高い空の奥から限りなく落ちて来て、石燈籠の屋根だの、飛石の上だのには、綿でもかぶせたように積もっています。枯木のようになった梅の木や、桃の木の枝にひっかかって、花でも咲いたようにきれいに見えました。」

『広い世界へ』三一頁

児童文学史の功績

秋生の功績は、児童文学の評論と児童文学史の研究です。新潮社『日本文学大辞典』一九三二年の児童文学項目を執筆して、児童文学を日本文学史に位置づけました。現在でも児童文学界で高く評価される功績で

す。『小川未明童話全集』の編集・解説を行いました。



山内秋生が執筆した児童文学史の本

実用書の功績

出版社に勤めていた秋生は、『少年少女 面白い手紙の文』一九一八年・『実用便覧 手紙辞典』一九二〇年・『思う事が自由に書ける 面白い手紙の文』一九二四年・『結婚読本』一九三九年の実用書を出版し社会に貢献しました。



山内秋生の実用書

文：久野俊彦 写真：原永円香